

本名公墨寶 下巻





本朝名公墨寶卷之下

目錄

八幡山惺々翁

雄德山松花堂惺惺翁

花下忘歸因

美京樽前勸

醉是春風

ちふハサマレハ

る
あな花

斜
かりうろ

の
あ
あ
あ

位
細沙鴉

潮落曉

飛
強鳴る

さあ深ま

さうにまゝに

月夜を松風と

花より

まじす

あけ顔光

知事

今宵涙

在

これこそふか

ちきねれや

かたけりき

此

うゑ

かゝるゝねん

胡踏落菴相

伴出暮随花

鳥一時来

ゆく雁ちふれ

— たるけ

こころ

空に—れぬ

夢よりあける

衣帯

背 壁

— 福 達

砂 粒 宿 病

方 軍 箱

くわい

ふん

花のふ

り
あ
あ

うき

あ

わ

あ
あ
あ

孫河文寛

号山曲

俊是あ

生下

ち
ち
は
は

ふ
ち
は
は

り
り

何
う
は
は

玉
や
あ
あ

柿
必
雨
雨

新
秋
地

桐
風
涼

名
お
お

煙くちく

かゝあれや

六の子が

あこがれや

袂すゝ

風流

静了

玄乃

海

三川と城

たふさにあ

か

天

子

く

あ

三 煙 岸

雪 花 初

白

一 夜 中

に

霜 花 雪

心を無き

祢さくまけハ

おろふく

おろ

をや

ちるひ

あつ

い

帰るる

桑一田高見

飲酒新

桑一ちあ

雲々

ふもれに

うもれに

あふれに

あふれに

雲々

雲一

雲々

雲々

わびうらに

ま—
おなう
よめ

や
ふ
お
え
う
れ

く
や
あ
あ
あ
あ

若使栄地

並み如時

無き心樂

不といふ

晨明のうら

しきもれを

る

ふつあも

うひくお

とふく

都籟曉興

世了老

孝深老

うん寒

み
のけし
よれ山
く
雪
あ

海身光親
空焼浪
疎海石聲
夜過山

まゝれむれ
むるれや
くろく
たうのけ
ふし

三少人

ねるね

そえ

あは

うにきふ死

かむやう

多秋の月

雲の如く

世にや羅れ

向晚簾以

生白露

終夜床底

見青と

夫ふくふふ

後より志之

のふ

一程さう

やうな

ふふふふ

海傍

店山

子菴中

ふとらばあ

うり
事

世の
れ

よわ

位
ち
かり
あ

長生殿

意
去
秋
風

不老門

前
日月
遊

よるのよる
さしそよほ
あめーだそ
かき

山市晴嵐

一竿酒師斜陽意

数簇人家煙曉中

山路醉眠

歸去晚

太平無日

不盡風

るうの葉のまを

くれお

まはく

あーあーあーあー

やまのまを

遠浦歸帆

鷺鷥青山一抹秋

潮平浪穩棹如飛

歸櫓漸入

漁花去

家在夕陽

江上頭

風むふふふふふふふ

浪ふふふふふふふ

清き水如斜まに

ふふふふ人

漁村夕照

薄暮沙汀成苑

稿

江南江北閑魚鱗

呼童買酒

大配弦

朴老西風

蘇軾

なみのうきをいふに

はりしむをいふに

よけをいふに

のち

遠寺晚鐘

雲遮不見梵王宮

殷々鐘聲訢晚風

此去上方

猶遠近

為言只在

此山中

く 雲のふちを

ほふ

かおのまにをちる

今

みちのち ちのち

平沙落鴈

古字書其法

墨蹟

幾り秋色に空行

道正法作

御内雪

錯向斜陽

刺東翎

あきぬあきぬ

のりりあきぬ

あきぬ

あきぬあきぬ

あきぬあきぬ

洞庭秋月

西風剪出芳

三

芳頃煙波浴桂花

漁舟不知

藕客恨

直吹寒秋

過

秋

くさくさ

くさくさ

く

力

くさくさ

か

く

く

漏湘夜雨

先自思江易新魂

凍雲粘雨濕黃昏

孤燈遙夜

新篁露

紙白竹枝

添海痕

石中子

新雨

よあけ

ささる

新洗

江天暮雪

雪後江天暮雪

扁舟一葉

以舟

前灣畔

西靜樓

新是山陰

高士人

あ の 葉 り の ね ぶ

お も し ふ の ね ぶ

は

み も の ね ぶ

ゆ り の ね ぶ

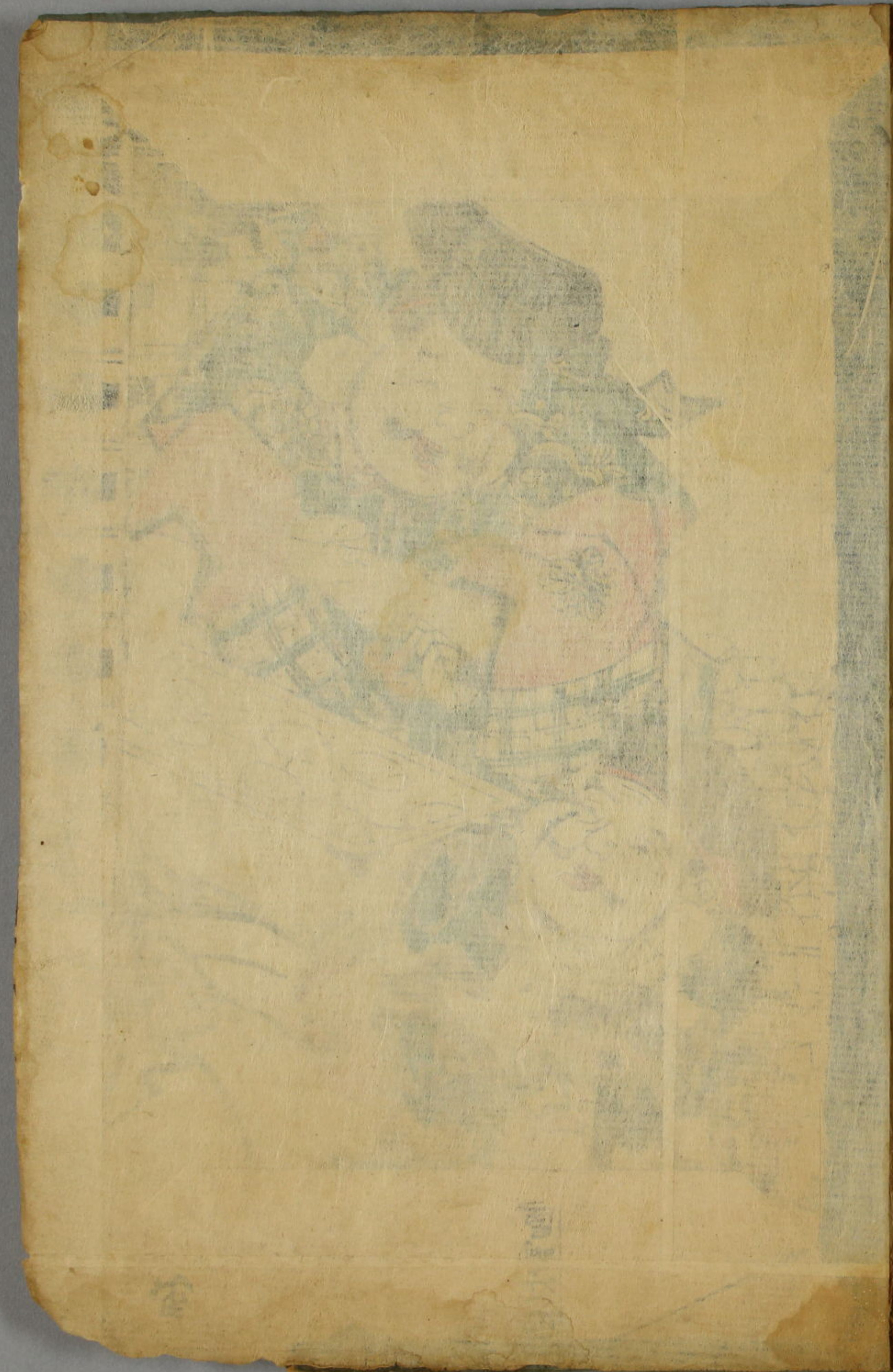
古人學書者未有不從門入蘓公終爲
非家珍實知蘓公語病如彼鍾繇受章
仲將羲之學衛夫人者有故乎名公墨
寶者何 本朝諸名公之墨刻也
本邦自古未見有勤珉刻木之帖是非
乏其人而好事者鮮矣一日或人以此
事求我予假借所知家藏極究目力臨
模鐫刻者若干人若干帖或行草或假

名惟急於成帙有不得廣蒐博采之遺
憾然墨寶之嗜好淳化之遺意也於是
可見龍飛虎跳風雲浮動之姿縱雖無
神采望其面目者也若臨池者步其蹊
逕知其端倪者庶幾一助云爾

正保三年昭和七年三月二月八拾六年

名惟急於成帙有不得廣蒐博采之遺
憾然墨寶之嗜好淳化之遺意也於是
可見龍飛虎跳風雲浮動之姿縱雖無
神采望其面目者也若臨池者步其蹊
逕知其端倪者庶幾一助云爾

正保三年仲秋月



正保三年仲秋月

